

第1回蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会 議事要旨

日時：令和元（2019）年8月9日（金）9：30～11：30

場所：大田区役所本庁舎 5階特別会議室

委員：中井 検裕 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授

大沢 昌玄 日本大学 理工学部土木工学科 教授

野原 卓 横浜国立大学大学院 准教授

齋藤 浩一 まちづくり推進部長、新空港線・まちづくり調整準備室長

青木 重樹 まちづくり推進部都市開発担当部長

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 部会の概要
事務局より資料1を基に説明
- 4 委員の紹介
- 5 部会長選出、部会長代理の指名
専門部会構成員の互選により、東京工業大学 中井教授が部会長に選任された。
部会長からの指名により日本大学・大沢教授が部会長代理に選任された。
- 6 部会の成立
部会長より専門部会の開催要件と出席委員数が確認され、専門部会の成立が宣言された。
- 7 議事
 - (1) 改定の概要・スケジュール
事務局より資料2及び資料3を基に説明
 - (2) 改定の考え方
事務局より資料4を基に説明

(委員)

進め方について、令和元年度に目標設定とあるが、先にアクションプランのような具体的な内容を検討しながら、目標を考えた方が良い。アクションプランを考えながら目標にフィードバックしていく作業が出来ていた方が、先に大きなイメージを決めるよりも、具体的な中身を進めて行く方が、より実行力のあるグランドデザインになるのではないかと。

(事務局)

ご指摘頂いたようにアクションプランから考えて、それに合わせて目標や基本方針を整理する考え方もあると思う。ご意見を踏まえて検討していきたい。

(委員)

例えば、まちの変化で住宅が増えている、といったときに住宅が増えているから居住のまちに、という流れとは限らない。基礎調査などの情報をしっかりと読み込んだうえで、単に数が増えた、ではなく、大きなトレンドで見たときに、急に増えているのか、緩やかに増えているのか、によって話は変わるため、基礎調査の結果をみて、何に対応するのかを考えなければいけない。

課題とその対応の仕方をどうするのか合わせて考えなければいけない。ここに挙げられている追加強化すべき項目を入れながら改定するのは当然だが、新空港線、羽田跡地の話、更に大きく言えば、気候変動の話と、色々あるが、どれを優先してやっていくかで話が変わってくるので、そこの辺りを検討できる材料を整理したうえで進めていく必要がある。

(委員)

流す目的の施設だけではなく、どうやって蒲田に留めるか、という視点を取入れる事が重要である。どんなものがまちにあれば蒲田に留まるのか。蒲田に関係ない人、蒲田とは別のところに住んでいる人、空港に行く人、帰る人、もしくは海外から来た人を蒲田駅周辺に留めるためにどうするのか。

今までの日本の駅前広場は、駅を降りたらすぐにバス・タクシーに乗れるというのが、主機能だったが、これからは変わってくる。駅を降りて目の前にバス・タクシー乗り場があってすぐ帰れるのも素敵だが、家族でご飯を食べてから帰るといった、ライフスタイルを展開するた

めに蒲田はどうすべきなのか、要するに、帰ってきたときの行動をどのように蒲田に留まらせるか、どのような空間を作らなければいけないかという視点が1つある。

あとは、朝、電車が混んでいた、蒲田駅で電車が止まっていたというときに、ならばコーヒーでも飲みながら、ベンチに座りながら仕事をしようかというような、滞留空間があってもよい。待つという視点があってもいいのかなと思う。

(委員)

アクションプランで、自転車と歩行者については書かれているが、自動車、駐車場についてどうするのかという視点が重要。人々のため、歩行者のために道路を開放するためには、車の対応はどうすべきなのか、自転車利用、歩行者利用と裏返して必ず出てくるので、アクションプランの中で視点として整理すると良い。

(事務局)

駅前広場の初動期整備等は、歩行者にやさしい駅前広場という目標を掲げている。一方、自動車やバス、自転車に関する施設整備も地元の方々から意見が出ている。中長期については、全体を見ながら、主眼を何処に置くのかしっかりと考えていかなくてはならない。

(委員)

商業と来街者だけで出来ている街ではない。住民がいて、日常生活的な場でもある。大拠点的な機能と生活拠点的な機能の両方をうまく処理しないといけない。行き交う場所だけでなく留まる、住む人がここから恩恵を受けることが出来るのかという視点は外せないと思う。行き交うなど、交流系の話は駅や新空港線の話と関係するので、どちらかというとな事業者主体・行政主体で進めていかなくてはならないが、留まる視点や生活の利便機能をどうするのかは、むしろ地元の方の意見を頂いたほうが良い。

(委員)

ソフト施策をしっかりと動かしましようという事を、エリアマネジメントも含めて入れた方が良い。また、どのように実施するかは最初から考えておいた方が良く、キーワードは人づくりだと思う。モノへの投資だけではなく、人材育成という言葉は固いが、人づくりみたいな話である。これにどれくらい力を入れられるかが現実的なポイントだと思う。

(委員)

新しいことをしたい人たちを受け入れる体制を作るのが難しい部分である。仕組み作り注力しないと、エリアマネジメントという言葉が宙に浮いて、具体的な動きにつながらなくなる可能性もあるので、ランドデザインにどう落とし込むか、検討していく必要がある。

(事務局)

区としてもエリアマネジメントや、駅まちマネジメントは重要と考えているが、地域の方々いきなりエリアマネジメントというのは難しいので、ある程度小さいところから入って、そこから徐々に広げて行って最終的には、エリアマネジメントになれば良いと考えている。まずは小さいところから始めようと考えている。

(委員)

令和8年に東口駅前広場は出来るが、それまでの間に、どんなことが出来るか考えた方が良い。回遊性でいうと東はJR蒲田駅から京急蒲田駅は約800m離れているが、この暑さの中歩けないし、高齢化が進んでくると800mは長い。1つのアイデアだが、池袋から東池袋も約800m離れている。実験で小さな電気バスを走らせるなどの、モビリティが考えられたら面白いのではないか。新空港線は10年20年と先なので、それまでの間だけでも考えられると良いと思う。

(委員)

小さなモビリティでつないでいながら、機運を高めていく事は戦略としても重要な話だと思う。

(3) 区民参画について

事務局より資料5を基に説明

(委員)

ワークショップの1回目と2回目は期間が離れているので切り離して、目的別にやっても良いと思う。勿論1回目の参加者にもご案内はして、参加して下さる方は、参加して頂ければよい。

地元の意見は各種会議体や団体等と議論し、直接意見を聞いた方が、色々な情報は得られる。一方で、会議体等に属していない人たちの意見が知りたいのであれば、企業や学生などとピン

ポイントで行ってどう思うのか、何クラスターか行ってまとめていく方が、知りたい情報は得られるのではないか。

エリアマネジメントのプレイヤーを求めているのであれば、その種になりそうな人を集めて実施した方が可能性は上がるかもしれない。得られる情報の目的設定を少し絞った方が、効果的な情報が得られるのではないか。

(委員)

出張座談会を上手にを使って、会議体等に属していない人だけを集めてワークショップをした方が良いのではないか。企業や学生を呼ぶことは可能なのか。

(事務局)

可能である。

(委員)

今日の委員会が出たご意見を踏まえ、事務局として考えること。

8 閉会